



かんせいちゅうがっこう 寛政中学校だより

だい 1 号
第1号

れい わ ねん がつ にち かんせいちゅうがっこう
令和7年 4月18日 寛政中学校

『目的地ではなく、旅路を大切に』

——令和7年度のはじまりに寄せて——

こうちよう なかむら まさかず
校長 中村 雅一

ほごしゃ ちいき みな 保護者・地域の皆さまへ

れい わ ねん ど 2025 年 の かんせいちゅうがっこう が スタート しました。

こんねん ど 今年度は 54 名 の 新入生 を 迎え、全校生徒 176 名 での スタート となりました。また、10 名 の 教職員 が 新たに 着任 しました。

がっこう せい か つ 学校生活で 最も 大切なことは、生徒一人ひとりが「安心して、楽しく毎日を過ごせること」だと考えています。

わ た し かんせいちゅうがっこう 私たち寛政中学校が目指すのは、『人も自分も大切に、誰もが居心地よく、生き生きと学び、笑顔あふれる学校』です。これは、「誰一人取り残さない」という言葉にも置き換えられますが、単なるスローガンではありません。一人ひとりの生徒が「自分は大切にされている」「ここにいていい」と実感できるような環境をつくることを意味しています。

わ た し が っ こ う 私たちがこの学校で育てたいのは、「自立した個」と「ともに生きる力」です。そのためには、お互いの「存在」や「違い」を認め合える力が必要です。入学式では毎年、校長式辞の中でそのことをお話しています。

お 互 い を 認 め 合 う た め に は、「相手の立場に立って考え、行動する思いやりの心」や、「相手のさまざまな事情を想像しようとする力」がとても大切です。これからも折に触れて、生徒たちにこうした思いを伝えていきたいと思っています。

ど う ぞ、今年度も保護者・地域の皆さまには、これまでと変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。また、お子さまや学校に関して、気になることやご心配なことがございましたら、遠慮なく学校までご相談ください。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

せい と みな 生徒の皆さんへ

さ て、2・3 年生 の 皆さま には、きくねん 度 の 修了式 と 今 回 の 始業式 で「3 人 の レンガ 積み 職人」のお話をしました。おさらいしてみましょう。

た び び と 旅 人 が 追 っ ば た で レンガ を 積 ん で い る 職 人 に「何をしているのですか」と、たずねます。

1 人 目 の 職 人 は こ う 答 え ま し た。

「見ればわかるだろ、親方の命令でレンガを積んで壁を作ってるんだよ。しんどいし、つまらない仕事だよ。」

2 人 目 の 職 人 は こ う い い ま し た。

「レンガを積んで大きな壁を作ってるんだ。大変だけど、お金がいいからね、これで家族を養っているんだ。」

そ し て 3 人 目 の 職 人 は 目 を 輝 か せ て こ う い い ま す。

「歴史に残る偉大な大聖堂をつくっているんだ！ここで多くの人が幸せになるところだと思うと、わくわくする」

この3人は、同じ作業をし、給料も同じですが、働く意識がまったく異なります。

1人目は、生活の糧としてただ作業をこなしているだけで、自分の意思を感じられません。

2人目は、家族のため、お金のために働いており、より効率の良い仕事を常に探しています。

3人目は、「大きな目的の一員として仕事に参加している」という誇りと「志」を持ち、明確な目的意識を持っています。

ここでわかるのは、3人が直面している【出来事】は同じでも、その【とらえ方】によって生じる感情が異なり、その結果、【行動や成果】も変わってくるということです。

さらに、この話には「4人目のレンガ職人」がいるとも言われています。どんな人でしょうか。

それは、「レンガを積むこと自体が楽しくて仕方がない」という人です。

目的よりも、行為そのものが楽しい。工夫することも苦にならず、夢中になっているうちにあっという間に時間が過ぎてしまう。そんな職人です。

1～3人目の職人は、給料や成長、社会的意義といった“目的”のために働いています。しかし、4人目の職人は、行為自体に喜びを見だし、レンガ一つ一つの表情を楽しみながら仕事に取り組んでいます。

この4人目の職人が教えてくれるのは、「人生の価値は目的地にあるのではなく、その旅路にある」ということかもしれません。旅は、どんなに時間がかかってもかまわない。目的地は、出発のきっかけにはなっても、すべてを与えてくれるわけではないとしたら、4人目のような生き方が、これからの時代の“幸せの感じ方”を象徴しているのではないかと思います。行為そのものに夢中になれるからこそ、さらに創意工夫が生まれ、スキルも向上していくのでしょうか。

「夢中に勝る努力なし」—4人目のように、好きなことを仕事にできたら、人生はもっと豊かになりますね。ただし、人の生きがいや幸福感は人それぞれで、主観的なものです。1人目も2人目も3人目の生き方も、すべて肯定されるべきなのだと思います。そうした考えや世界観こそを大切にしていきたいと思っています。

生徒の皆さん、目標の先にある“目的”を意識しつつも、目的地にたどり着くことだけでなく、その過程で得られる経験や学びを大切にしていきましょう。

人生において本当に大切なのは、「何を達成したか」ではなく、「その過程で何を学び、どんな人間になるか」です。目標に向かう道のりこそが、真に価値のあるもの。どうか、このことを忘れず、新年度のよいスタートをきってください。応援しています。

(令和7年4月18日)